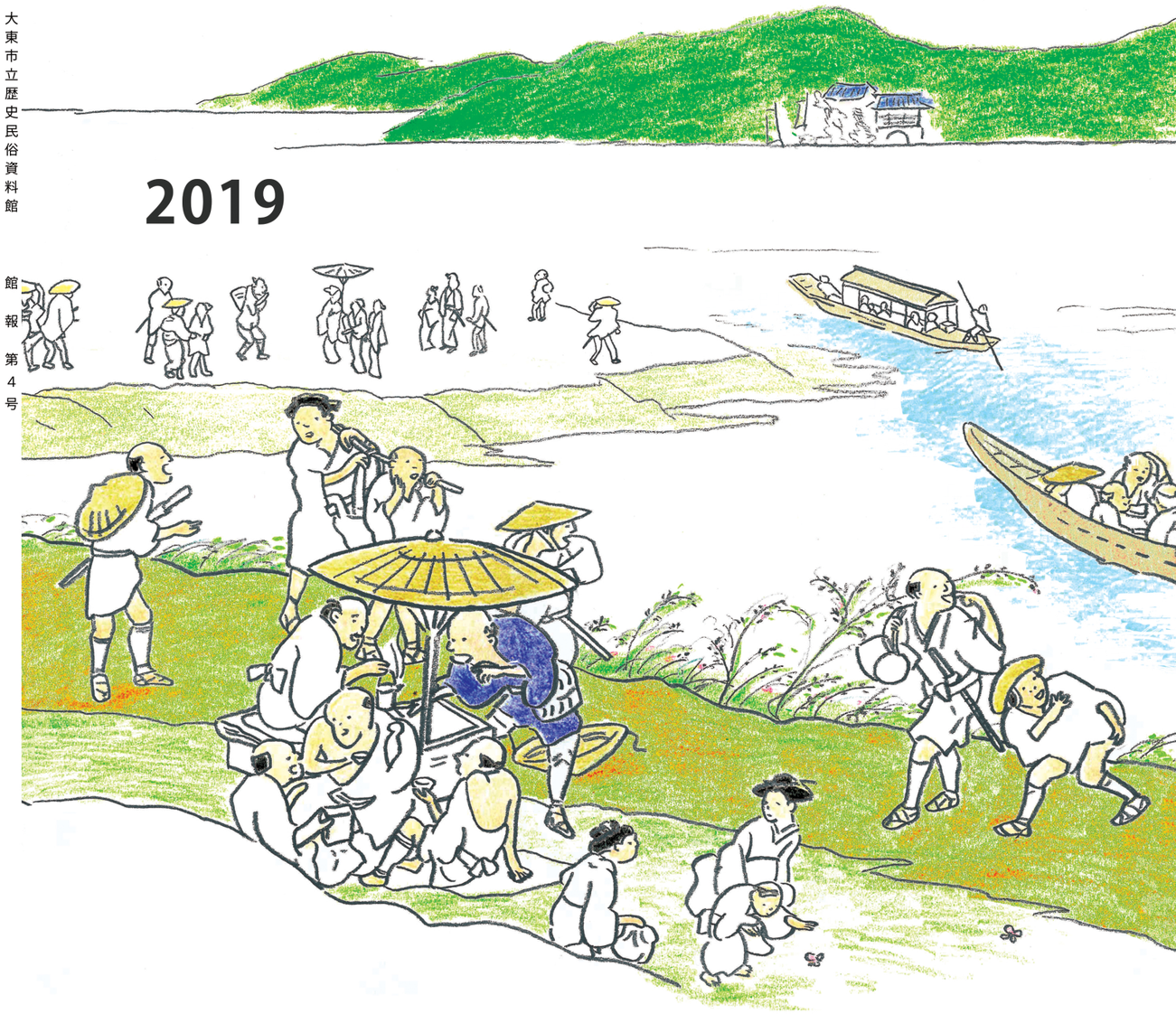
ISSN 2433-1767

大東市立歴史民俗資料館

館報 第4号

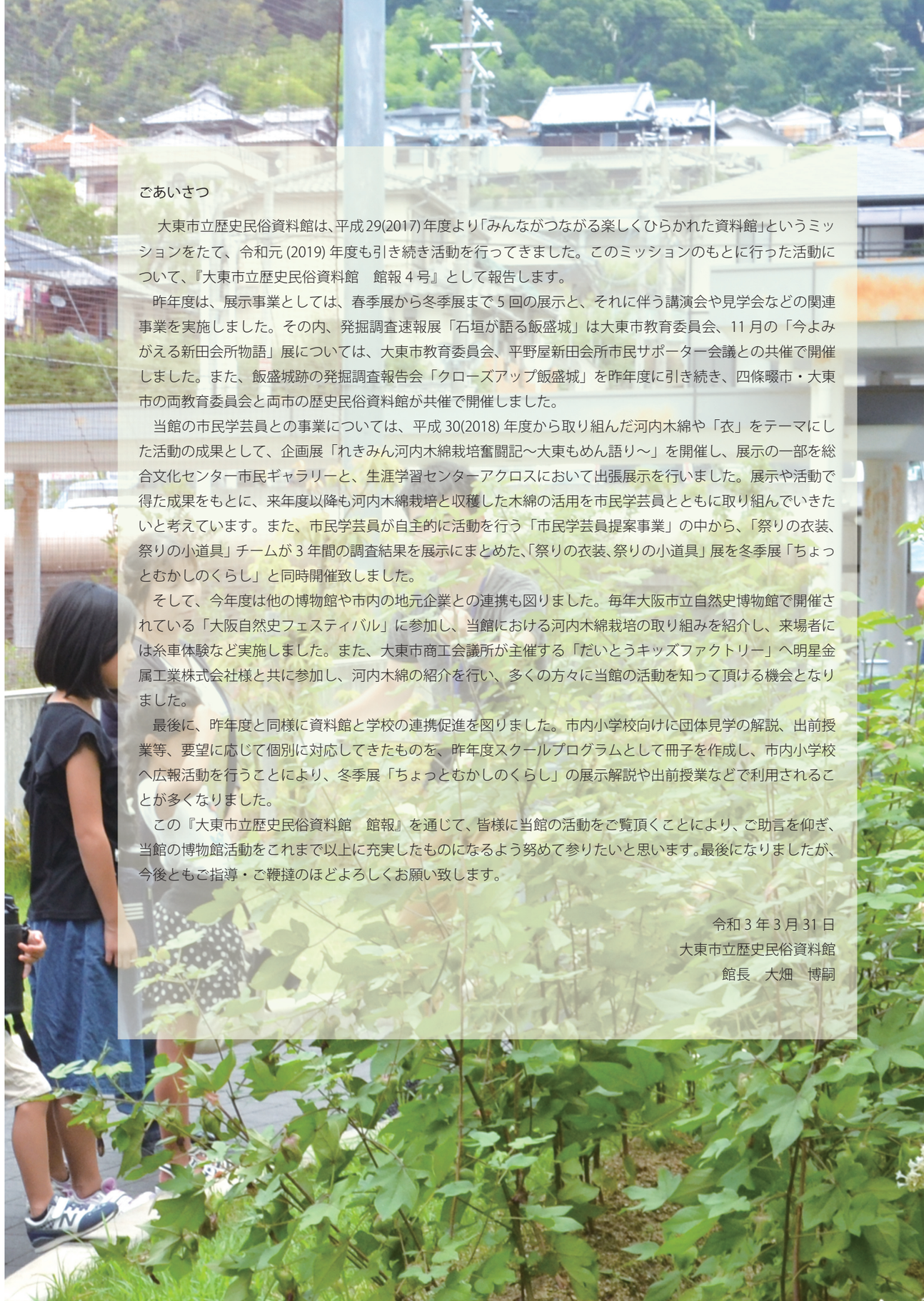
2019



大東市立歴史民俗資料館

館報　第4号

2019



ごあいさつ

大東市立歴史民俗資料館は、平成29(2017)年度より「みんながつながる楽しくひらかれた資料館」というミッションをたて、令和元(2019)年度も引き続き活動を行ってきました。このミッションのもとに行った活動について、『大東市立歴史民俗資料館　館報4号』として報告します。

昨年度は、展示事業としては、春季展から冬季展まで5回の展示と、それに伴う講演会や見学会などの関連事業を実施しました。その内、発掘調査速報展「石垣が語る飯盛城」は大東市教育委員会、11月の「今よみがえる新田会所物語」展については、大東市教育委員会、平野屋新田会所市民サポーター会議との共催で開催しました。また、飯盛城跡の発掘調査報告会「クローズアップ飯盛城」を昨年度に引き続き、四條畷市・大東市の両教育委員会と両市の歴史民俗資料館が共催で開催しました。

当館の市民学芸員との事業については、平成30(2018)年度から取り組んだ河内木綿や「衣」をテーマにした活動の成果として、企画展「れきみん河内木綿栽培奮闘記〜大東もめん語り〜」を開催し、展示の一部を総合文化センター市民ギャラリーと、生涯学習センターアクロスにおいて出張展示を行いました。展示や活動で得た成果をもとに、来年度以降も河内木綿栽培と収穫した木綿の活用を市民学芸員とともに取り組んでいきたいと考えています。また、市民学芸員が自主的に活動を行う「市民学芸員提案事業」の中から、「祭りの衣装、祭りの小道具」チームが3年間の調査結果を展示にまとめた、「祭りの衣装、祭りの小道具」展を冬季展「ちょっとむかしのくらし」と同時開催致しました。

そして、今年度は他の博物館や市内の地元企業との連携も図りました。毎年大阪市立自然史博物館で開催されている「大阪自然史フェスティバル」に参加し、当館における河内木綿栽培の取り組みを紹介し、来場者には糸車体験など実施しました。また、大東市商工会議所が主催する「だいとうキッズファクトリー」へ明星金属工業株式会社様と共に参加し、河内木綿の紹介を行い、多くの方々に当館の活動を知って頂ける機会となりました。

最後に、昨年度と同様に資料館と学校の連携促進を図りました。市内小学校向けに団体見学の解説、出前授業等、要望に応じて個別に対応してきたものを、昨年度スクールプログラムとして冊子を作成し、市内小学校へ広報活動を行うことにより、冬季展「ちょっとむかしのくらし」の展示解説や出前授業などで利用されることが多くなりました。

この『大東市立歴史民俗資料館　館報』を通じて、皆様に当館の活動をご覧頂くことにより、ご助言を仰ぎ、当館の博物館活動をこれまで以上に充実したものになるよう努めて参りたいと思います。最後になりましたが、今後ともご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

令和3年3月31日
大東市立歴史民俗資料館
館長　大畑　博嗣

大東市立歴史民俗資料館　職員　（令和 2 年 3 月 31 日現在）

館　　長　　大畑　博嗣

博士（文学）。大谷大学真宗総合研究所研究補助員、大谷大学研修員などを経て、平成 24(2012) 年 4 月より学芸員として当館に勤務。平成 28(2016) 年 4 月より主任学芸員、平成 29(2017) 年 10 月より副館長を経て、平成 31(2019) 年 4 月より現職。専門は日本仏教史。中世堺における仏教教団史が主たる研究テーマだが、明治期の真宗寺院再建史や近代の真宗大谷派学事史に関する論文も執筆。資料館では、文献史料を担当。

学　芸　員　　森井　綾乃

平成29(2017)年京都市立芸術大学大学院美術研究科工芸専攻染織修了。平成26(2014)年9月より勤務。平成 31(2019) 年 4 月より現職。主に展示 や広報物の制作・デザイン、河内木綿に関する取り組み等を担当する。

学　芸　員　　森田　拓馬

奈良大学文化財学科保存科学コース卒業後、模型や複製品製作の民間企業に勤める。平成 30(2018) 年 4 月より勤務。平成 31(2019) 年 4 月より現職。資料館では体験機材の製作や、モノづくりの視点から資料を見る取り組みを担当する。

学　芸　員　　甲斐　規予子

京都造形芸術大学歴史遺産学科文化財保存修復コース卒業後、国立民族学博物館に勤務を経て平成 28(2016) 年 9 月より現職。資料館では民俗資料を担当。市民学芸員と協同し、民俗資料収蔵庫の収蔵展示や、バックヤードツアーに取り組んでいる。

学　芸　員　　北村　美香

博士（博物館学）。専門は博物館教育・マネジメント。滋賀県平和祈念館の初代学芸員として、開館準備室より勤務。その後、博物館の教育普及等を支援する「結 creation」を平成 27(2015) 年に立ち上げる。大阪市立自然史博物館、滋賀県立琵琶湖博物館の外来研究員。平成 30(2018) 年 4 月より現職。資料館では、教育普及および運営に関するサポートを行っている。

大東市立歴史民俗資料館　市民学芸員　（令和 2 年 3 月 31 日現在）　53 名

浅野　純郎	川人　美智子	竹元　智子	東村　誠
綾部　洋	北野　武司	田里　孝子	樋口　佳文
安達　昌代	木邨　加奈	為則　照子	平尾　寿美子
安藤　文平	栗山　登志子	為則　泰明	平尾　和久
石田　薫	黒川　喜和子	辻　ゆう子	平嶋　貞子
磯野　良隆	桒原　妙子	寺原　千佳子	広田　美和
伊藤　幸美	桑村　和男	冨増　由起子	前田　喜久子
上野　繁	小泊　繁美	中下　志津子	松本　幸広
氏原　稔夫	澤田　明音	中西　昭治	水永　八十生
岡田　寧寧	柴田　俊雄	中村　義之	森川　安生
柿木　薫	末若　よしこ	西川　瑞代	吉武　文美恵
金澤　涼子	杉本　謙介	服部　悦子	
金澤　涼夏	鈴木　敏之	林田　惠子	
加茂　伸子	大薗　美貴子	檜垣　一美	

目　次

ごあいさつ

Ⅰ　館報

1　資料館事業報告

1　展示・関連事業　6 － 10
2　学芸員体験講座　11
3　講師派遣事業　12 － 16
4　その他の事業　17 － 18
5　スクールプログラム　19
6　資料貸出及び掲載等　20 － 21
7　月別入館者数　22

2　市民学芸員事業報告

1　例会・連絡会会議・見学会　24
2　市民学芸員提案事業　25 － 27
3　何かし隊・学芸員提案事業　28 － 32

Ⅱ　研究報告

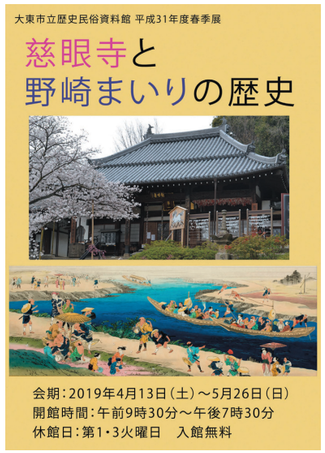
・「民具×米作り体験」における、民具の活用
～資料館と青少年協会の連携から生まれたもの～
甲斐 規予子　34 － 37

・令和元年度企画展「れきみん河内木綿栽培奮闘記
～大東もめん語り～」の実施と結果
森井 綾乃　38 － 47

Ⅰ 館報

1 資料館事業報告

2019



春季展

慈眼寺と野崎まいりの歴史

平成 31 年 4 月 13 日 (土) ～令和元年 5 月 26 日 (日)

参加者数 / 1542 名 (期間中入館者数)

担　　当 / 大畑 博嗣

内　　容 / 毎年「野崎まいり」の時期に合わせて慈眼寺所蔵史料を借用し、絵図や古文書を使って寺と野崎まいりの歴史を紹介する。

企画展関連事業

講演会・見学会「野崎観音境内案内」

4 月 20 日 (土)　14 時－ 16 時

参加者数 / 10 名　**講師 /** 大畑 博嗣

展示担当学芸員より、展示のポイントや展示史料の解説を行った後、慈眼寺へ移動し、本堂など境内の建物と本尊に関する解説を行った。

発掘調査速報展

石垣が語る飯盛城

令和元年 6 月 29 日 (土) ～ 7 月 28 日 (日)

参加者数 / 1643 名 (期間中入館者数)

主　　催 / 大東市教育委員会、大東市立歴史民俗資料館

内　　容 / 飯盛城跡の発掘調査成果の速報展。飯盛城の周囲に張り巡らされた「石垣」に焦点をあて、出土遺物や写真・測量資料から天下人の城・飯盛城の実態に迫る展示。

企画展関連事業

展示解説「石垣が語る飯盛城」

7 月 14 日 (日)　14 時－ 15 時

参加者数 / 43 名　**講師 /** 李 聖子さん (大東市教育委員会)

飯盛城跡の発掘調査成果についての説明や、展示の解説を行った。

企画展
れきみん河内木綿栽培奮闘記
～大東もめん語り～
令和元年 8 月 10 日 (土) ～ 10 月 27 日 (日)

参加者数 / 2554 名 (期間中入館者数)

担　　当 / 大畑 博嗣、森井 綾乃、甲斐 規予子

内　　容 / 平成 30 年度に市民学芸員と取り組んだ木綿栽培の記録を中心として、大東市と河内木綿の関わりや、「河内木綿」や「衣」にまつわる史資料の調査成果等について紹介した。

3 館連携事業
出張展示「れきみん河内木綿栽培奮闘記」
大東市立生涯学習センターアクロス / 8 月 20 日 (火) ～ 9 月 3 日 (火)
大東市立総合文化センター市民ギャラリー / 9 月 4 日 (水) ～ 9 月 7 日 (土)
【関連イベントギャラリートーク】
大東市立生涯学習センターアクロス / 8 月 31 日 (土) 14 時 ー 15 時
大東市立総合文化センター市民ギャラリー / 9 月 7 日 (土) 13 時 ー 14 時

参加者数 / 110 名 (アクロスのみ期間中入館者数・ギャラリートーク参加者数合計)　**講師 /** 大畑 博嗣、森井 綾乃、市民学芸員

企画展の内容を他施設でも紹介するため、出張パネル展示を実施した。また関連イベントのギャラリートークでは、展示説明と「綿繰り」や「糸紡ぎ」の体験を行った。

企画展関連事業
ワークショップ②「親子で型染め体験」
10 月 20 日 (日) 13 時ー 15 時

参加者数 / 7 名　**講師 /** 森井 綾乃、市民学芸員

参加者が自ら考えた図案をもとに型紙を彫り、糊で防染してトートバッグを藍染めした。

企画展関連事業
ワークショップ①「もめんのおしごと体験」
8 月 25 日 (日) 13 時ー 14 時 30 分

参加者数 / 16 名　**講師 /** 森井 綾乃、市民学芸員、博物館実習生

当館が育てている木綿畑での「収穫」や昔の資料を見ながらの「綿繰り」と「糸紡ぎ」、簡単な枠を使用した「織りもの」などといった、木綿にまつわる作業工程を体験することの出来るイベントを、博物館実習生による運営のもと実施した。

平野屋新田会所市民サポーター会議展
今よみがえる新田会所物語
令和元年 11 月 9 日 (土) ～ 11 月 24 日 (日)

参加者数 / 531 名 (期間中入館者数)

主　　催 / 平野屋新田会所市民サポーター会議、大東市教育委員会、大東市立歴史民俗資料館

内　　容 / 平野屋新田会所の歴史や、会所跡地周辺に残る水路や樋について調査した結果などを展示した。

企画展関連事業
見学会「今よみがえる新田会所物語」
11 月 24 日 (日) 13 時ー 15 時 30 分

参加者数 / 18 名　**講師 /** 平野屋新田会所市民サポーター会議

平野屋新田会所市民サポーター会議のメンバーによる案内で、歴史民俗資料館から平野屋新田会所跡地まで、新田に関わる遺跡を巡りながら見学会を行った。

1

展示・展示関連事業

企画展
ちょっとむかしのくらし・祭りの衣装 祭りの小道具
令和元年 12 月 7 日 (土) ～令和 2 年 3 月 7 日 (日)

参加者数 / 3137 名 (期間中入館者数)
担　当 / 甲斐 規予子、市民学芸員 (祭りの衣装・祭りの小道具チーム)
内　容 / 家のなかで使う道具の移り変わりをテーマとした展示。同時開催として、市民学芸員が 3 年間に渡り調査してきた、大東市内のだんじりにまつわる衣装や小道具についての調査成果をパネルにまとめて紹介した。

企画展関連事業
講演会「むかしのくらしの道具たち」
12 月 15 日 (日) 14 時－ 16 時

参加者数 / 16 名　**講師 /** 伊達 仁美さん (京都造形芸術大学 教授)

昨今の市町村合併により地域色のある民俗資料館の統廃合を懸念して、小学校で民俗資料を収蔵・展示することを提案し、京都市立明徳小学校の展示施設「明徳小さな博物館」を整備された伊達仁美さんから、事例紹介とともに、今後の次世代継承について講義いただいた。

企画展関連事業
座談会「大東のちょっと昔を語る」
1 月 26 日 (日) 14 時－ 15 時

参加者数 / 4 名　**講師 /** 中田 秀幸さん (大東市青少年協会理事)、中村 学 (大東市立歴史とスポーツふれあいセンター総合館長)

大東市内に長年住んできた地元の方から、当時の生活やだんじりの思い出、子どもの頃の遊びなどについてそれぞれお題をもとにフリートークをしていただいた。

大東市立歴史民俗資料館・大東市立生涯学習センターアクロス共催事業
出張展示「旅するミュージアム」
1 月 10 日 (金) ～ 1 月 23 日 (木)

参加者数 / 189 名 (期間中入館者数)

企画展の内容を、大東市立生涯学習センターアクロスの利用者にも紹介するため、出張展示を実施した。また、だんじり連携事業として、過去のだんじり調査や、文化庁補助金事業における成果についてパネルで紹介し、だんじりの模型も披露した。

企画展関連事業
「れきみんカーニバル」
2 月 16 日 (日) 13 時－ 16 時

参加者数 / 293 名　**講師 /** 市民学芸員、他

布ぞうりづくり・勾玉づくり・万華鏡づくり・収蔵庫たんけんツアーなど、学芸員が提案したワークショップや、市民学芸員による民話の紙芝居、かるた遊び、紙トンボ作りといった様々なワークショップをこどもを対象に実施した。

2

学芸員体験講座

学芸員体験講座
令和元年 5 月 25 日、6 月 22 日、7 月 27 日、8 月 24 日、9 月 28 日、10 月 26 日、11 月 23 日 (土・祝)、12 月 21 日、令和 2 年 1 月 25 日　　毎月第 4 土曜日　14 時 ― 16 時 30 分

参加者数 / 194 名 (延べ人数)
担　当 / 笠井 敏光さん (大阪国際大学 教授)、大畑 博嗣、森井 綾乃、森田 拓馬、甲斐 規予子、北村 美香

内　容 /
第 1 回　ガイダンス・大東の歴史
第 2 回　文献史料の見方・調べ方
第 3 回　民俗資料の見方・調べ方
第 4 回　考古資料の見方・調べ方
第 5 回　企画展レクチャー
第 6 回　市内文化財見学
第 7 回　レファレンス
第 8 回　展示のプロセスと方法
第 9 回　資料の梱包方法
第 10 回　近隣の博物館見学 (中止)
第 11 回　まとめ (中止)

公民館　古文書サークル

平成 31 年 4 月 18 日、令和元年 5 月 16 日、6 月 20 日、7 月 18 日、9 月 19 日、10 月 24 日、11 月 21 日、12 月 19 日、1 月 16 日、2 月 20 日 (木)　14 時～ 16 時 30 分

参加者数 /　66 名 (延べ人数)

担　　当 /　大畑 博嗣

内　　容 /　一昨年 8 月から「初めて古文書を読む会」としてサークル活動を開始したため、『大東市史編纂資料集』に掲載されている古文書を使い、参加者へ古文書解読の講座を行った。

大東市立野外活動センター (キャンピィだいとう)「民具×米作り体験」

令和元年 5 月 3 日 (金)、6 月 2 日 (日)、8 月 11 日 (日)、10 月 6 日 (日)、11 月 10 日 (日)、12 月 1 日 (日)　10 時 30 分～ 15 時 30 分

参加者数 /　128 名

主　　催 /　認定 NPO 法人大東市青少年協会　（協力 / 大東市立歴史民俗資料館）

担　　当 /　大畑 博嗣、森田 拓馬、甲斐 規予子

内　　容 /　田舟、馬鍬といった所蔵民俗資料を活用した米作り体験。

第 1 回　苗床づくり
第 2 回　田植え
第 3 回　藍染・草取り
第 4 回　稲刈り
第 5 回　脱穀
第 6 回　試食

大阪産業大学工学部総合教育科目「大阪産業大学と社会」

令和元年 5 月 7 日 (火)　10 時 40 分～ 12 時 10 分

参加者数 /　166 名

担　　当 /　大畑 博嗣

内　　容 /　工学部 1 回生の一般教養科目として、「大阪産業大学と社会」が開講されており、その中で「大東の歴史と名所・旧跡」という題目で講義を行った。

阪南大学「博物館資料論」学外講義

令和元年 6 月 16 日 (日)　10 時 30 分～ 17 時 30 分

参加者数 /　14 名

担　　当 /　大畑 博嗣、森井 綾乃、森田 拓馬、甲斐 規予子

内　　容 /　阪南大学からの依頼を受け実施。博物館資料論を実地で学べるよう、「文献資料」「民俗資料」「染織品」「資料の梱包方法」について館蔵品を活用し、講義と実習を行った。

奈良大学通信教育学部　博物館実習

令和元年 6 月 29 日 (土)、30 日 (日)、7 月 5 日 (金)、6 日 (土)、7 日 (日)　10 時～ 16 時 30 分

参加者数 /　130 名 (延べ人数)

担　　当 /　大畑 博嗣、森井 綾乃、森田 拓馬、甲斐 規予子、北村 美香

内　　容 /　「文献史料」「教育普及」「梱包」「民俗資料」「展示」といった内容の講義と実習で 5 日間の実習を行った。

大阪国際大学
博物館実習事前実習

令和元年 7 月 14 日 (日)　10 時 30 分～ 17 時 30 分

参加者数 /　20 名

担　　当 /　大畑 博嗣、森井 綾乃、森田 拓馬、甲斐 規予子

内　　容 /　博物館実習の事前学習として、資料の取り扱い方を中心に実習。館蔵の文献資料、民俗資料を活用して実施した。

大阪国際大学
「文化プロデュース論」学外講義

令和元年 8 月 23 日 (金)　10 時 30 分～ 12 時

参加者数 /　13 名

担　　当 /　大畑 博嗣

内　　容 /　歴史民俗資料館と歴史とスポーツふれあいセンターの概要について説明したあと、展示室や収蔵庫など館内の見学を行った。

大東シニア総合大学　観光学部
講義

令和元年 8 月 30 日 (金)、9 月 20 日 (金)　10 時～ 12 時

参加者数 /　23 名 (延べ人数)

担　　当 /　大畑 博嗣

内　　容 /　1 日目は、大東の歴史について講義した後、展示室と収蔵庫の見学を行った。2 日目には、平野屋新田会所の歴史について講義を行った。

3
講師派遣事業

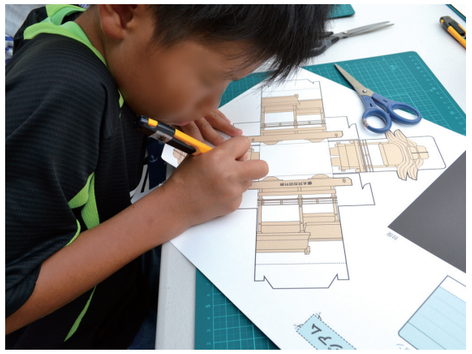
京都橘大学
「公共施設論」学外講義

令和元年 9 月 5 日 (木)　10 時～ 13 時

参加者数 /　3 名

担　　当 /　大畑 博嗣

内　　容 /　資料館とふれあいセンターの概要について説明したあと、展示室や収蔵庫など館内の見学を行った。



野崎参道商店街「四条ふるさと祭り」
だんじりペーパークラフト

令和元年 10 月 20 日 (日)　10 時～ 14 時

参加者数 /　18 名

担　　当 /　大畑 博嗣、森田 拓馬

内　　容 /　だんじりペーパークラフトのワークショップを行った。ワークショップ以外に当館所蔵のだんじりの彫り物と解説パネルを展示した。

大阪自然史フェスティバル

令和元年 11 月 16 日 (土)、17 日 (日)
9 時 30 分～ 16 時 30 分

参加者数 /　26000 名 (延べ来場者数)

担　　当 /　大畑 博嗣、森井 綾乃、甲斐 規予子

内　　容 /　大阪市立自然史博物館・認定特定非営利活動法人大阪自然史センター・関西自然保護機構主催の、「自然」に関わる活動団体が一挙に集まる文化祭に出展。「河内木綿」に関する活動紹介や、綿繰り機・糸車の体験ワークショップも実施した。

3

講師派遣事業

大東商工会議所主催「だいとうキッズファクトリー」
河内木綿のお仕事体験

令和元年 12 月 14 日 (土)　10 時～ 16 時

参加者数 /　358 名 (来場者数)

担　　当 /　大畑 博嗣、森井 綾乃

内　　容 /　市内及び市内近郊のこども達に「もの作りに興味をもってもらう」「さまざまな職種をしってもらう」「大東市の企業を知ってもらう」事を目的としたイベント。簡易な織物ワークショップを行った。

近畿民具学会
研究大会

令和元年 12 月 22 日 (日)　10 時～ 16 時 30 分

参加者数 /　15 名

担　　当 /　甲斐 規予子

内　　容 /　学芸員に限らず、民具研究に携わる研究者が各々の研究内容について発表を行った。「地域博物館における絵馬調査について」というタイトルで大東市御供田地区における絵馬調査について発表した。

公民館 de 歴史時代劇シネマ
「郡上一揆」

令和 2 年 1 月 16 日 (木)　13 時 30 分～ 16 時 15 分

参加者数 /　27 名

担　　当 /　大畑 博嗣

内　　容 /　公民館・古文書サークル「初めて古文書を読む会」との共催事業。江戸時代の農民がどういった生活をしていたのかを知るために、映画を鑑賞した後、参加者の質問に答える形でトーク交流会を開催した。

4

その他事業

学芸員スキルアップ研修
「博物館実習担当者情報交換会」

令和元年 5 月 27 日 (月)　18 時～ 20 時

参加者数 /　28 名　　**講師 /**　高田 みちよさん (高槻市立自然博物館)、金尾 滋史さん (滋賀県立琵琶湖博物館)、杉林 真樹子さん (池田市立歴史民俗資料館)、中尾 智行さん (大阪府立弥生文化博物館)、三橋 弘宗さん (兵庫県立人と自然の博物館)、大畑 博嗣

内　　容 /　8 回目となる学芸員スキルアップ研修会は、日ごろあまり他館の様子を知る機会のない、博物館実習 (館務実習) のカリキュラムを共有することが目的。いくつかの施設に実例を報告していただくとともに、大学側が館務実習にどういったことを期待しているのかなどを議論する場となった。

飯盛城発掘調査報告会
「クローズアップ飯盛城」

令和元年 7 月 20 日 (土)　13 時～ 16 時

参加者数 /　570 名　　**講師 /**　李聖子さん（大東市教育委員会）、實盛良彦さん（四條畷市教育委員会）、中井均さん（滋賀県立大学）

内　　容 /　大東市教育委員会、四條畷市教育委員会、四條畷市立歴史民俗資料館、大東市立歴史民俗資料館の共催事業。平成 27 年度から行われている国史跡に向けた飯盛城跡の発掘調査について、実際に発掘を担当している職員と中井氏からの報告が行われた。

「平野屋新田会所跡」史跡指定記念講演会
「未来につなぐ新田開発の遺産」

令和元年 8 月 10 日 (土)　13 時 30 分～ 16 時 30 分

参加者数 /　150 名

担　　当 /　佐々木拓哉さん（大東市教育委員会）、岡村喜史さん（大東市史編纂委員）、松本裕さん（大阪産業大学准教授）、網伸也さん（近畿大学教授）

内　　容 /　平野屋新田会所跡をはじめとする深野池新田開発関連文化財群の保存と活用の可能性について考える。

4

その他事業

博物館実習

令和元年 8 月 21 日 (水) ～ 25 日 (日)　9 時～ 17 時

参加者数 /　22 名 (延べ人数)

講　　師 /　大畑 博嗣、森井 綾乃、甲斐 規予子、北村 美香

内　　容 /　近畿大学、大阪国際大学の学生の博物館実習を実施した。1 日目は展示の作り方、2 日目は資料撮影の方法、3 日目は古文書の見方や撮影方法、4 日目はワークショップの企画、5 日目は一般来館者へ向けたワークショップの実施を行った。

ICOM Kyoto 2019 (国際博物館会議 京都大会) 関連イベント「みゅぜコット 2019 in 京都」

令和元年 9 月 4 日 (水)、5 日 (木)　13 時 30 分～ 21 時、9 時 30 分～ 17 時

参加者数 /　—

内　　容 /　京都府ミュージアムフォーラム、小規模ミュージアムネットワーク、古墳フェスはにコット実行委員会、ICOM 京都大会組織委員会が主催する、ICOM 京都大会の関連イベントにおいて 46 のミュージアムや団体、クリエーターなどの活動を紹介するパネル展に参加した。

職場体験 (住道中学校)

令和元年 9 月 4 日 (水) ～ 5 日 (木)　9 時～ 17 時

参加者数 /　4 名 (延べ人数)

講　　師 /　大畑 博嗣、森井 綾乃、森田 拓馬

内　　容 /　住道中学校から依頼を受けて実施。木綿畑の手入れや、掲示物の作成などを行った。

堂山古墳群講演会・見学会「世界文化遺産百舌鳥・古市古墳群と堂山古墳群」

令和元年 11 月 30 日 (土)　14 時～ 16 時 30 分

参加者数 /　27 名　　**講師 /**　笠井敏光さん（大阪国際大学教授）

内　　容 /　堂山古墳群史跡広場普及促進事業の一環として実施。堂山古墳 1 号墳を中心に、造成された 5 世紀頃の大東市域周辺の様子や、堂山 1 号墳に埋葬された人物と百舌鳥・古市古墳群に埋葬された大王との関係について、講演を行ったあと、史跡広場へ行って現地の説明を行った。

5

スクールプログラム

市内小学校団体見学利用実績

日時	学校名	学年	人数
1 月 15 日 (水)	住道北小学校	3 年生	64 名
1 月 31 日 (金)	泉小学校	3 年生	78 名
2 月　3 日 (月)	深野小学校	3 年生	31 名
2 月　5 日 (水)	四條畷学園小学校	3 年生	106 名
2 月 10 日 (月)	深野小学校	3 年生	32 名
2 月 10 日 (月)	深野小学校	3 年生	32 名
2 月 14 日 (金)	南郷小学校	3 年生	70 名
2 月 20 日 (木)	三箇小学校	3 年生	95 名
2 月 21 日 (金)	四条北小学校	3 年生	89 名

合計 7 校　597 名

小学校講師派遣事業

日時	学校名	学年	担当	内容	人数
9 月 18 日 (水)	四条小学校	4 年生	大畑 博嗣、甲斐 規予子	大和川の付替え	88 名
12 月 11 日 (水)	四条北小学校	4 年生	森井 綾乃、森田 拓馬、甲斐 規予子	大和川の付替え・糸車体験	87 名
1 月 20 日 (月)	氷野小学校	1 年生	森田 拓馬、甲斐 規予子	糸車体験	35 名
1 月 22 日 (水)	氷野小学校	1 年生	森井 綾乃、甲斐 規予子	糸車体験	33 名
1 月 24 日 (金)	三箇小学校	1 年生	大畑 博嗣、森井 綾乃	糸車体験	75 名
1 月 30 日 (木)	住道北小学校	1 年生	大畑 博嗣、森井 綾乃	糸車体験	51 名
2 月　7 日 (金)	寝屋川市立桜小学校	1 年生	森井 綾乃、森田 拓馬	糸車体験	58 名
2 月 17 日 (月)	四条小学校	1 年生	森井 綾乃、森田 拓馬	糸車体験	102 名

大和川の付替え 1 校、大和川の付替え・糸車体験 1 校、糸車体験 6 校　　合計 8 校　594 名

資料の貸し出し及び掲載等

資料名	貸出先	目的	公開期間
加賀屋四郎兵衛請書写	日野市立新選組のふるさと歴史館	平成 31 年度特別展「土方歳三」にて展示のため。	平成 31 年 4 月 13 日 ～7 月 31 日
飯盛城　赤色立体図	株式会社学研プラス	8 月刊行予定の書籍『戦国の山城を極める』（加藤理文・中井均共著）で飯盛城を紹介する際に掲載。 ※電子書籍にも掲載予定。	—
飯盛城跡石垣写真 飯盛城跡虎口写真 飯盛城跡礎石写真 飯盛城跡南丸写真 飯盛城跡石垣写真	株式会社新風書房	季刊「大坂春秋」第 175 号中、黒田淳氏 (大東市教育委員会) と天野忠幸氏 (天理大学) の寄稿論考中の参考図版として。	—
『窮理問答』(下)	奈良県立民俗博物館	シリーズ展　科学×道具「昔のくらしのサイエンス」での「明治の科学教育」コーナーで展示。	令和元年 7 月 17 日 ～9 月 15 日
石垣 88　写真 石垣 88　写真 (西側より撮影) 採石場跡　写真 石垣 65・66　写真	株式会社　ネクサス	BS-TBS「にっぽん！歴史鑑定」第 212 回にて、飯盛城を紹介する際、発掘調査の結果を紹介するため。	—
飯盛城石垣 65・66 写真 飯盛城石垣 88 写真	個人	野崎まいり公園通信 9 月号に掲載のため。	—
中垣内遺跡　土器 (SD-A303) 中垣内遺跡　土器 (SD-B302) 中垣内遺跡　土器 (SD-C302) 中垣内遺跡　獣骨 (弥生ブタ) 中垣内遺跡　赤彩土器 (SR-06) 中垣内遺跡　壺 (SD-404) 中垣内遺跡　人形状木製品 (SD-404) 鍋田川遺跡　甕 中垣内遺跡　第 3-a 遺構面全景　写真 中垣内遺跡　第 5 遺構面 SR-06 出土朱彩弥生土器　写真 中垣内遺跡　第 4 遺構面全景 (西より) 写真 中垣内遺跡　人形状木製品　写真 鍋田川遺跡　土器群 (南東より)　写真 鍋田川遺跡　石剣　写真 中垣内遺跡　出土土器　甕　蓋　壺　写真 中垣内遺跡　弥生ブタ　写真	四條畷市教育委員会	四條畷市教育委員会と四條畷市立歴史民俗資料館 (指定管理者 : 地域文化財研究所・ケントクグループ) が共催する第 34 回特別展「重要拠点 KARIYA」への展示のため。	令和元年 9 月 9 日 ～12 月 27 日

6
資料貸出及び閲覧等

資料名	貸出先	目的	公開期間
だんじり　獅噛写真 だんじり　彫物写真	個人	ふるさと祭りにおいて、だんじりの話をする PR に使用。	—
ランプ　写真 裸電球　写真 炭火アイロン　写真 クワ　写真	株式会社清風堂書店	習熟プリントシリーズ　社会小学 3・4 年において「昔のくらし」について写真を通して児童に分かりやすく伝えるため。	—
アルミ羽釜　写真	丸善出版株式会社	令和 2 年 2 月刊行予定の「民具学事典」において、民具に多く使われてきた素材・アルミニウムを紹介するにあたり、アルミニウムを使用した代表的な民具例として「アルミ羽釜」を紹介するため。	—
飯盛城発掘調査関係　写真	NHK 大阪拠点放送局制作部	NHK 番組「歴史秘話ヒストリア歴史ニュース 2019」(仮) 制作のため 本放送：令和 2 年 2 月 26 日 (水)22:30 ～ 23:20　NHK 総合放送予定 ※本放送以外に再放送・海外放送・NHK オンデマンド予定あり。	—
平野屋新田会所跡発掘　写真 平野屋新田会所跡船着き場跡　写真 平野屋新田会所復元図	清文堂出版株式会社	薮田貫氏著書『大阪遺産』に掲載のため。	—
石切場跡　写真 城ケ谷 2 号墳　写真 寺川遺跡　写真 宮谷 1 号墳　写真 宮谷古墳群石切丁場跡　写真 北新町遺跡　周辺遺跡分布図データ	個人	『徳川大坂城石切場跡の研究―生駒山地西斜面石切丁場跡群―』(仮題)(編集・発行 : 残念石研究会、2020 年 4 月発行予定) に写真・図面を掲載するため。	—
柳沢保泰位牌　写真 柳沢保興位牌　写真 利休図　写真	株式会社　法藏館	『本願寺教団と中近世社会』(2020 年春刊行予定) の大畑論文の図版として掲載 (モノクロ) のため。	—
平野屋新田会所跡　船着場跡 (石段) 写真	近畿文化会	『近畿文化』845 号所収予定の安村俊史氏（柏原市立歴史資料館館長）の原稿「旧大和川を歩く（五）」に掲載するため。	—

合計 15 件 51 点

7

月別入館者数

月	開館日数	一般来館者数			団体来館者数			事業参加者数	来館者数合計
		大人	子ども	計	大人	子ども	計		
4月	28	866	73	939	20	0	20	64	1023
5月	29	849	85	934	36	0	36	349	1319
6月	28	749	67	816	53	0	53	240	1109
7月	29	1432	99	1531	45	0	45	838	2414
8月	29	857	102	959	47	0	47	316	1322
9月	28	911	75	986	0	0	0	295	1281
10月	29	835	93	928	21	0	21	121	1070
11月	28	892	66	958	0	0	0	199	1157
12月	26	691	84	775	0	0	0	606	1379
1月	26	684	74	758	12	134	146	510	1414
2月	27	866	108	974	41	414	455	586	2015
3月	29	404	9	413	0	0	0	0	413
合計	336	10036	935	10971	275	548	823	4124	15916

2 市民学芸員事業報告

2019

1

例会・連絡会会議

大東市立歴史民俗資料館市民学芸員

学芸員体験講座修了生

↓

市民学芸員になる

↓

市民学芸員提案事業に参加する

学芸員提案事業に参加する

市民学芸員提案事業・学芸員提案事業に参加する

市民学芸員に登録して時々参加

↓

市民学芸員連絡会・例会

市民学芸員・市民学芸員連絡会・資料館間の報告や連絡、調整の場

大阪天満宮見学

市民学芸員連絡会会議

平成 31 年 4 月 13 日、令和元年 5 月 11 日、6 月 8 日、7 月 13 日、9 月 14 日、11 月 9 日、12 月 7 日、2 月 8 日 (土)
13 時 30 分～ 14 時

出 席 者 / 大畑 博嗣、森井 綾乃、森田 拓馬、甲斐 規予子、市民学芸員提案事業代表者
参加者数 / 16 名 (延べ人数)
内　　容 / 市民学芸員例会に際し、事前に報告や連絡を行う調整会議。

市民学芸員例会

平成 31 年 4 月 13 日、令和元年 5 月 11 日、6 月 8 日、7 月 13 日、8 月 10 日、9 月 14 日、10 月 12 日、11 月 9 日、12 月 7 日、1 月 11 日、2 月 8 日 (土)　14 時～ 16 時

参加者数 / 181 名 (延べ人数)　　**登録者数 /** 53 名
内　　容 / 市民学芸員連絡会、市民学芸員提案事業、学芸員提案事業、資料館についてそれぞれ報告や連絡を行う。

見学会 (パナソニックミュージアム)

令和元年 10 月 15 日 (火)　14 時～ 16 時

参加者数 / 19 名

見学会 (大阪天満宮・造幣博物館)

令和 2 年 2 月 13 日 (木)　14 時～ 16 時

参加者数 / 14 名　　**講師 /** 笠井 敏光さん (大阪国際大学教授)

2

市民学芸員提案事業

①礎石

②唐臼支点石

③歌碑表

③歌碑裏

④刻印と矢穴跡のある石

⑤又の刻字境界石

石造物・民話チーム

令和元年 5 月 11 日、6 月 8 日、7 月 13 日、9 月 14 日、11 月 9 日、12 月 7 日、令和 2 年 1 月 11 日、2 月 8 日 (土)
14 時～ 16 時

登 録 者 / 安達 昌代、上野 繁、加茂 伸子、北野 武司、栗山 登志子、黒川 喜和子、澤田 明音、田里 孝子、中下 志津子、中村 義之、林田 惠子、平嶋 貞子、水永 八十生

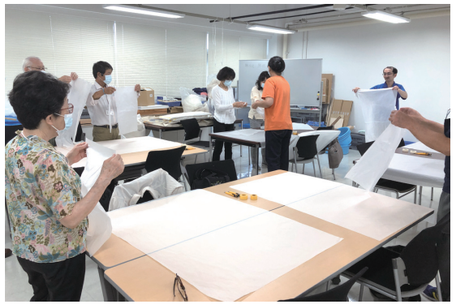
内　　容 /

大東市には、市の発展の基礎となった市史跡がある。『平野屋新田会所跡』がそれである。会所屋敷が宅地開発で解体された時に集められた石造物が会所跡に積まれている。

私たちチームは、それらを 4 回に渡り調査をした。これらの石造物群は、何を語っているのか、大東市にとって新田開発は何をもたらしたのか、今日的意義を含め考えていく必要がある。

《　保存地内に集められている主な石造物の紹介　》
・柱をのせる削り込みがある礎石・・・①
・踏臼 (唐臼) の支点にする石 (一部が欠けている)・・・②
・高松家歌碑 (歌碑表は解体前に撮影されたもので現在は伏せられていて読めない、歌碑裏面は「高松別家中建之」「七十九歳　老風」の文字)・・・③
(老丸とされているが老風とも読めるのでここでは、老風にしている。要検討。水永)
・刻印と矢穴跡のある石 (「残念石」か)・・・④
・「又」と刻まれた石柱 (境界石)・・・⑤

(原稿：中村義之、水永八十生)



収蔵庫チーム

令和元年 5 月 11 日、6 月 8 日、7 月 13 日、8 月 10 日、9 月 14 日、11 月 9 日、12 月 7 日、令和 2 年 1 月 11 日、2 月 8 日 (土)
14 時～ 16 時

登 録 者 / 浅野 純郎、磯野 良隆、氏原 稔夫、桒原 妙子、柴田 俊雄、杉本 謙介、竹元 智子、為則 泰明、為則 照子、寺原 千佳子、檜垣 一美、東村 誠、平尾 和久、平尾 寿美子

内　容 /

展示のために収蔵庫にある資料を探す度に気になっていたのが、

①中身がほとんど入って無いコンテナがある。

②コンテナの中の資料を出すが、元に戻せない。

ということでした。解決するには、

①はコンテナを整理すれば、そのスペースが空くのでは？

②はコンテナをわかりやすく棚に入れれば、片付けやすいのでは？

ということで、コンテナの整理をするべく、今年度はスタート。本のコンテナから始めました。コンテナの中身と表示をチェックしつつ、薄葉紙で本を包み、保管状態を少しでも良くしようとしました。本に見入ってしまい手を止める事も多々ありましたが、なんとか終了。

次に食器類のコンテナ整理をしようとした時期が夏だったので、食器の下に敷く『綿布団』づくりに。綿布団がほかで使われてしまうという不幸に見舞われ、秋以降も綿布団づくり。

「さぁ、食器類のコンテナにかかろう」というところで、コロナ騒動で活動がストップしてしまいました。

思うように作業が進みませんが、活動再開になったら、少しづつ片付けていきたいと思います。

(原稿：竹元 智子)

祭りの衣装・祭りの小道具

令和元年 6 月 8 日、7 月 13 日、8 月 10 日、9 月 14 日、11 月 9 日、10 日 (日)、15 日 (金)、18 日 (月)、12 月 1 日 (日)、2 日 (月)、6 日 (金)、7 日 (土)　14 時～ 16 時

登 録 者 / 柿木 薫、小泊 繁美、中西 昭治、広田 美和、前田 喜久子、森川 安生

内　容 /

令和元 (2019) 年 12 月 7 日より 令和 2 (2020) 年 3 月 8 日まで「祭りの衣装 祭りの小道具」展を開催しました。平成 28 (2016) 年に開催した「祭りの音 祭りの声」展に続く、市民学芸員提案事業の展示第二弾です。

発案は平成 29 (2017) 年の春。まずは、調査内容や進め方等について事前準備をし、その秋から令和元 (2019) 年まで、足掛け 3 年に渡り撮影・取材調査を行いました。お祭り当日は市内各地区に手分けして伺いましたが、平成 29 (2017) 年は雨、令和元 (2019) 年は台風と天候の影響もあり、残念ながら全地区を網羅することはできませんでした。

展示の準備に際しては、パソコン上での作業にせず、誰でもいつでも参加できるよう、大きく印刷した写真や文章を鋏で切り抜き、パネルに並べて貼っていくという方法を取りました。

当初、展示をするのか、冊子としてまとめるのか等、着地点を決めずにスタートした活動は、展示という形で一旦まとめることができました。撮影・取材調査にご協力いただきました皆様、展示をご覧いただきました皆様、ありがとうございました。

(原稿：柿木 薫)

何かし隊
河内木綿畑作業

令和元年 5 月 9 日、23 日 (木)　14 時～ 15 時、13 時～ 15 時

参加者数 /　7 名 (延べ人数)

担　　当 /　森井 綾乃

内　　容 /　歴史民俗資料館で育てるワタの種まきや、ポットで発芽させたワタを畑の畝に移植する作業を行った。

何かし隊
夏季企画展イベントサポート

令和元年 8 月 25 日 (日)、9 月 7 日 (土)、10 月 20 日 (日)
13 時～ 14 時 30 分、13 時～ 14 時、13 時～ 15 時

参加者数 /　9 名 (延べ人数)

担　　当 /　森井 綾乃

内　　容 /　夏季企画展の関連イベントとして実施した木綿のお仕事体験や、ギャラリートーク、藍型染め体験といったイベントの補助を行った。

何かし隊
斧・鉈調査

令和元年 11 月 20 日 (日)　10 時 30 分～ 17 時

参加者数 /　7 名

担　　当 /　森田 拓馬

内　　容 /　収蔵民俗資料の中から、「斧」「鉈」に分類されている資料を調査した。来歴が不明瞭な収蔵資料を、形状や用途によって使用目的を類推してみる試みを行った。分類上は「斧」と総称されているが、割り斧や切り斧などの用途別に分類できた。

3
学芸員提案事業

何かし隊
「ちょっとむかしのくらし」展示設営作業

令和元年 11 月 26 日 (火)、12 月 4 日 (水)　10 時～ 15 時

参加者数 /　10 名 (延べ人数)

担　　当 /　甲斐 規予子

内　　容 /　12 月から開催予定の、冬季展「ちょっとむかしのくらし」の展示作業を行った。民家の屋内の再現展示の設営などを中心に行った。

何かし隊
御供田調査

令和元年 11 月 28 日 (木)　13 時 30 分～ 16 時

参加者数 /　6 名

担　　当 /　甲斐 規予子

内　　容 /　令和 2 年度秋季企画展「御供田展 (仮題)」に向けて、現在の御供田地区について調査するため、「御供田だいじてんをつくろう！」と題したワークショップを市民学芸員と実施した。キーワードに対応したものを見つけ、写真撮影をし、カード作りのための材料を集めた。

何かし隊
門真市立歴史資料館　見学対応

令和元年 12 月 8 日 (日)　13 時 30 分～ 15 時

参加者数 /　4 名

担　　当 /　大畑 博嗣

内　　容 /　門真市立歴史資料館「市民学芸員養成講座」受講生に館内見学対応を行った後、当館の市民学芸員との懇談を行った。

何かし隊
だいとうキッズファクトリーサポート

令和元年 12 月 14 日 (土)　10 時～ 16 時

参加者数 /　4 名

担　　当 /　森井 綾乃

内　　容 /　大東商工会議所主催の「だいとうキッズファクトリー」において、歴史民俗資料館が実施するワークショップのサポートを行った。

何かし隊
小学校団体見学対応

令和 2 年 1 月 15 日 (水)、31 日 (金)、2 月 3 日 (月)、5 日 (水)、10 日 (月)、14 日 (金)、20 日 (木)、21 日 (金)
10 時～ 11 時 30 分、9 時 30 分～ 12 時

参加者数 /　30 名 (延べ人数)

内　　容 /　小学校 3 年生を対象とした、企画展「ちょっとむかしのくらし」の団体見学対応をサポートした。

何かし隊
れきみんカーニバル準備

令和 2 年 2 月 12 日 (水)　10 時～ 12 時

参加者数 /　2 名

担　　当 /　森井 綾乃

内　　容 /　2 月に開催予定のイベント「れきみんカーニバル」に出展する「布ぞうりづくり体験」のための準備を行った。

何かし隊
れきみんカーニバル

令和 2 年 2 月 16 日 (日)　13 時～ 16 時

参加者数 /　17 名

担　　当 /　甲斐 規予子

内　　容 /　企画展「ちょっとむかしのくらし」の関連イベントとして開催された「れきみんカーニバル」において、ものづくりや紙芝居上演、収蔵庫案内などの補助を行った。

古文書探し隊

平成 31 年 4 月 24 日、令和元年 5 月 8 日、22 日、6 月 12 日、26 日、7 月 10 日、24 日、8 月 14 日、28 日、9 月 11 日、25 日、10 月 9 日、23 日、11 月 13 日、27 日、12 月 11 日、25 日、1 月 8 日、22 日、2 月 12 日、26 日 (水)　14 時～ 16 時

参加者数 /　245 名 (述べ人数)

担　　当 /　大畑 博嗣

内　　容 /　企画展「れきみん河内木綿栽培奮闘記～大東もめん語り～」の準備として、資料館所蔵史料から木綿に関する史料を選び、調査を行った。7 月以降は、市民学芸員から、「くずし字用例辞典」・「くずし字解読辞典」の使い方か知りたいとの要望があり、２週目は龍間のだんじり関連史料の翻刻作業を、４週目は辞書を使った古文書解読講座を行った。

3

学芸員提案事業

大東木綿隊

平成 31 年 4 月 26 日、令和元年 5 月 24 日、6 月 28 日、7 月 26 日、8 月 23 日、9 月 27 日、10 月 25 日、11 月 22 日、12 月 27 日、1 月 24 日、2 月 28 日 (金)、29 日 (土)
14 時～ 16 時

参加者数 / 40 名 (延べ人数)
担　　当 / 森井 綾乃
内　　容 / 歴史民俗資料館で育て、収穫したワタを用いた糸紡ぎの練習や、再現した下機で織ることを目標に、練習として「腰当て」を簡易な腰機で織り、製作した。また、当館の所蔵する古い木綿の糸密度や模様を調査し、腰機による再現製作に取り組んだ。

収蔵庫整理し隊

令和元年 5 月 11 日、5 月 19 日 (日)、6 月 8 日、11 月 9 日、12 月 7 日 (土)

参加者数 / 59 名 (延べ人数)
担　　当 / 甲斐 規予子
内　　容 / 当館の所蔵するだんじりや、木綿関係資料群を収蔵庫に配架しなおし、1 点ずつ管理ラベルを付与した。また、他館における収蔵庫の管理方法を参考とするため、奈良県立民俗博物館の収蔵庫見学なども行った。

作り隊

令和元年年 7 月 13 日、8 月 10 日、9 月 14 日、10 月 12 日、令和 2 年 1 月 11 日、2 月 8 日 (土)　10 時～ 12 時、14 ～ 16 時

参加者数 / 58 名 (延べ人数)
担　　当 / 森田 拓馬
内　　容 / 当歴史民俗資料館の西側にそびえ、大東市の歴史とも関わりの深い「飯盛山」の地形模型制作に挑んだ。5m 間隔の等高線で描かれた 1/1000 縮尺の図を、5 ミリ厚のスチレンボードに貼り付け切り出し、積層作業の準備を 6 回に分けて行った。

II 研究報告

2019

「民具×米作り体験」における、民具の活用
～資料館と青少年協会の連携から生まれたもの～

甲斐　規予子

1．はじめに

各地の博物館では、教育普及事業の一環として地域の米作りとその道具の変遷を伝えるために、子どもに稲こきを用いた脱穀体験や、唐箕を用いた風選 (ふうせん) 体験をさせるといった事例がみられる。近年では、こうした博物館や資料館に所蔵された民具の活用を図る動きが活発にあり、その一例として、砺波市における地域共働による民具活用事業[i] があげられる 。大東市立歴史民俗資料館[ii] (以下、資料館) においては、平成 25 年度より、認定 NPO 法人大東市青少年協会[iii] (以下､協会) と連携し、民具を活用した米作り体験事業に取り組んできた。この事業では、河内の米作りをテーマとし、単なる米作りの体験だけでなく、資料館の収蔵資料を用いて、河内ではどのような農具を使って米作りをしていたのか、またその農具を使う背景には地域の歴史や環境がどのように関わっているのかを学ぶことを目的としている。この事業の成果について、博物館教育の視点から見直していきたい。

2．6 年間のあゆみ

協会と資料館の最初の共催事業は、「脱穀体験」から始まった。平成 25 年 11 月 2 日に協会が運営する野外活動センターで実施した米作り体験において、足踏み脱穀機や、千歯こきといった脱穀に関わる館蔵資料を資料館が現地へ持ち出し、それらを用いて参加者とともに稲の脱穀作業を行ったのである。この時は脱穀体験のみの協力であったが、これを機に翌々年の平成 26 年度から青少年野外活動センター共催事業「民具×米作り体験」が始まり、田植えや代掻きなど脱穀作業以外の米作りにも館蔵資料を活用することとなった。当初は協会と資料館の共催事業であったが、平成 29 年度より青少年協会主催で、資料館はその協力という形に変わり現在まで継続している。

3．事業の内容

事業名称は「歴史民俗資料館の民具を使って！　民具×米作り体験」である。河内の米作りをテーマに米作りの歴史や文化を学びながら、昔の農具を使って米作りをし、最後はみんなで作ったお米を羽釜で炊いて試食する、という内容となっている。会場は大東市龍間にある大東市立野外活動センター (キャンピィだいとう) で、米作りは、協会が指定管理者として運営に当たっている、大東市龍間にある大東市立野外活動センター (キャンピィだいとう) の周辺にある小さな田んぼを 2 枚ほど利用して行っている。対象者はおとな、またはファミリーとしていて、個人でも家族でも参加は出来るが子どもだけでの参加は不可としている。なお、子どもの活動については、一緒に申し込んだ大人が責任を持ち活動に参加してもらうようにしている。各回の参加費は有料だが、年間会員になれば各回で参加費を払わず年会費を始めに支払っておけば、全ての回に参加出来るようになっている。おとな、こども (3 歳～中学生)、未就学児 (1 ～ 2 歳) と年齢で分けて費用を設定し、プログラム費・保険代等を含んだ参加費を徴収している。年間会員については一回ごとの体験料は必要なく、会員特典として、おとな会員には収穫したお米が 1kg プレゼントされ (2019 年度の場合)、また会員特別価格で収穫したお米を購入できる。

昨年度は年間 6 回実施 (表 1) し、各回の内容は苗代作り、代掻き、田植え、草取り、稲刈り、脱穀、試食会であった。当初参加者は、苗代作り、代掻き、田植え作業後は 7 月～ 9 月の夏季の草取り工程を飛ばし、稲刈りから参加していたが、田んぼ 2 枚分の草取り作業を青少年協会と資料館の人員、米作り隊のサポートだけで行うのは負担が大きかったため、2018 年度から一般参加者にも夏季の草取り作業に参加してもらうようになった。共催事業の時は資料館の学芸員が講師として、また市民学芸員「お米作り隊」がサポートとして共に参加していたが、現在は資料館からは基本的に職員だけが関わっており、人手が多く必要な草取り作業などの時だけ、市民学芸員の手を借りているという状態である。協会が事業の企画運営と田んぼの管理を行い、資料館は事業で使用する館蔵資料の持ち出しとその管理を行い、また各回で使う民具などの解説講座を担当している。

以前､この事業の中で､「半田 (掻揚田)」という方法で、米と木綿の栽培に取り組んだことがあった。河内周辺では、かつて河内木綿の栽培に「半田 (掻揚田)」という方法を用いており、これは河内の綿栽培の特徴である。水田の中に畑をつくり、綿の種を蒔く方法で、その再現を試みたのであった (写真 1)。この半田再現を提案したのは、当時の担当者である溝邊悠介氏であり、協会との米作り事業があったからこそ、取り組むことが出来た試みである。

参加者は苗代作りから実食までを体験するため、どの時期にどの農具を使うのかを一通り体験することもできる (写真 2)。対象者は大人もしくは家族としており (子どもだけでの参加は不可)、米作りとその道具についての講座の内容についても大人向けとなっている。

参加者は家族連れがほとんどであるが、この事業の対象はあくまで大人である。そのため、学芸員が話す内容をまだ理解することが難しいような子どもや、講座に興味のない子どもについては、講座中は協会スタッフと共にザリガニ釣りなどをして、外で遊んで過ごす。講座が終わったら、子どもたちは合流し、米作りの作業を大人と共に参加する。

米作り作業以外にも、わら細工を作る体験や、田んぼに設置するかかし作りの体験、草木染の体験を行うこともあった。その年にどのような体験を組み込むかは、協会の企画を受けて、資料館の方で持ち出せる資料があるかを相談しながら進めてきた。2019 年度の場合、8 月の除草作業の日に資料館から綿繰り機・糸車を持ち出し、資料館で育てている木綿の綿くり体験と糸紡ぎ体験を

	日時	内容	参加者数
第 1 回目	5 月 3 日（金）10 時 30 分～ 15 時 30 分	苗床つくり	87 名
第 2 回目	6 月 2 日（日）10 時 30 分～ 15 時 30 分	田植え	35 名
第 3 回目	8 月 11 日（日）10 時 30 分～ 15 時 30 分	草取り / 草木染	33 名
第 4 回目	10 月 6 日（日）10 時 30 分～ 15 時 30 分	稲刈り	75 名
第 5 回目	11 月 10 日（日）10 時 30 分～ 15 時 30 分	脱穀	51 名
第 6 回目	12 月 1 日（日）10 時 30 分～ 15 時 30 分	試食	58 名

表 1

1：半田の再現

2：唐うす体験

行った。この年は夏季に、大東市における河内木綿の栽培をテーマとした企画展を資料館で開催しており、企画展の周知にもつながった。

４．参加者の反応

江戸時代から昭和にかけて使われていた農具を、実際に触るだけでなく米作りの中で使うという体験ができるのは、参加者にとっては得る情報がとても多いことがわかった。参加者は、最初に講義で説明を受けただけではあまりピンと来ないが、自分の身体で農具を使う中で、「だからこの作業には、この農具が必要なのか」と、体感的に理解することが出来るようになる。また、単年での参加に終わらず、数年継続して参加している人の場合には段々と農具の扱いに慣れてきて、経験を積むことで、他の新たな参加者へ使い方を教えられるほどになる。米作りの段取りもわかるようになるので、作業準備をしているスタッフの手伝いを積極的にしてくれる参加者もいる。

4 年ほど、家族で参加している方から、「息子がベビーカーに乗っている頃から参加しているが、今年はその子が踏み車を踏んでいて、成長を感じた。また、子どもが家でごはんを残さず食べるようになった。」というお話があった。その子どもは、事業へ参加する前は白米があまり好きではなかったそうだが、米作りを通していつの間にか家庭でも白米を残さず食べるようになったそうだ。まさしく食育が実践されていたのだった。また、他の家族からは「奈良県立民俗博物館に見学に行ったとき、(米づくりでは) いつも遊んでばかりと思っていた子どもが、展示資料を見て「これ見たことある！」と反応していた。」と、子どもたちが展示資料と米作りで使った民具を結びつけていたという話があった。このお話からは、事業を通じて参加者が博物館へ行き、展示を見るという行動につながっていることがわかる。実際に、この事業に参加した人は資料館へも足を運んでくれることが度々ある。

子どもの反応については、印象深いエピソードがある。稲刈りの回に、資料館で体験用に作成した、石包丁を用いて稲の穂摘みをしたことがあった。とある子どもにその石包丁を持たせたら、熱心に穂摘みをし始めて、私は驚いた。その女の子はまだ小学 1 年生ほどで、米作りのときはすぐに飽きてしまい、ザリガニ釣りや他の子と別の遊びを始めてしまう印象を抱いていたため、この石包丁にもすぐに飽きてしまうだろうと思っていた。しかし、この子は 30 分～ 40 分ほど、同じくらいの年の子やお姉さんと交代しながら、他の大人が鎌で稲刈りをしている間も、ずっと穂摘み作業を続けていた (写真 3)。私は米作りのときの姿しか見たことがないのだが、この子がここまで集中する姿を初めて見た。削られた石の刃でプチプチと茎を摘み取っているその眼差しは、とても真剣で、何を考えているのかは読み取れなかったのだが、彼女の中で何かが起きていることは感じた。これも、博物館体験の一つではないだろうか。

5. 事業の反省点

事業の反省点については、作業中に、担当者が目を離していたため農具が破損する事故が発生したことがあった。幸いこれによる参加者の怪我はなかったが、活用時の監視を怠ったこと、活用資料のメンテナンス不足は深く反省するべき点であった。踏車など長期的に水に漬けるものは劣化が激しく、野外での体験に使う上ではある程度の劣化はやむを得ないが、資料を活用に用いて大丈夫であるか、状態の見極めは慎重にしなければいけないと反省した。講座で話す内容についても、事業参加者はリピーターが多いため、内容が毎年参加する人にとっては何度も同じ話を聞くことになってしまうという点もあった。新たに参加する人だけでなく、リピーターにも配慮して様々な内容に展開する必要がある。

3：石包丁の体験

参加者には事業へのアンケートは、資料館職員が行う講座の内容が、参加者の興味のある内容なのかそうでないのかといった、アンケートをとることも必要と考えているが、積極的に参加者との交流を図り、会話をして直接反応を知ることも重要である。今後は体験の中での参加者のつぶやきをなるべくとりこぼさず、それを記録し残していく仕組みもつくっていきたい。

そして、事業の中でも一番困難であったのは「自然を相手にしている」事であった。天候、鳥獣害、除草の大変さ (無農薬) など、事業でやる (年間日程が決まっている) には帳尻合わせができない難しさがあった。これらは、舞台裏の協会職員の努力があったから成せることであった。

６．まとめ

今回の事業を通して得たものであるが、何よりも青少年協会との連携の中で、体験学習についての考え方やノウハウを協会スタッフの方から資料館職員も実地に学ぶことが出来たということが非常に大きい。資料館でもこれまで、大人や子どもを対象とした事業を開催してきたが、あらゆる危険がある野外における体験学習で、多くの子どもたち指導してきた協会の方の知識と経験は、資料館の事業にも生かされることが無数にあった。

また恥ずかしい話ではあるが、私自身もこれまで米作りの経験をしたことがなく、農具を使った経験も全くなかったのである。本などから得た知識だけでなく、この事業で実際に体験したことで、より収蔵資料についての見識を深めることができた。米作りの指導に当たる協会の中田秀幸氏を始め、サポートに当たるスタッフの皆さんや農家の方には、参加者とともに多くのことを学ばせていただいた。

青少年協会との連携で、資料館のもつ資料の活用について新たな可能性を見出すことができた。前任者である溝邊悠介氏は資料館を離れた現在も、サポートという形でこの事業に関わっており、これは他館学芸員との連携ということになる。多様な人が関わることによって、資料館だけではみえなかった可能性や、課題を発見することが出来るのだ。何よりも、この活動を継続することが資料館の周知はもちろん、博物館体験の蓄積や博物館の学びを広げることにつながるだろう。今後も協会と資料館の連携を継続し、垣根を越えた活動をさらに展開することを願っている。

末筆となるが、関係した皆様に心より感謝を申し上げる。

註

ⅰ) 文化庁・平成 31 年度 「地域と共働した美術館・歴史博物館創造活動支援事業」砺波の民具の活用実行委員会「砺波の民具の活用事業」 ＜ https://chiikitokyodo.bunka.go.jp/jirei/32.html ＞ 20210301 閲覧

ⅱ) 昭和 62 年 (1987) に市制 30 周年を記念して開館した。平成 20 年 (2008) からは指定管理者制度の導入により、市直営から指定管理者へ運営体制が変わる。その後、資料館は旧四条小学校を廃校利用した施設「大東市立歴史とスポーツふれあいセンター」内に移転し、平成 24 年 (2012)4 月にリニューアルオープンした。

ⅲ) 青少年の健全育成を目的として昭和 45 年から活動しており、野外活動を中心とした体験活動を企画運営している。平成 30 年 10 月 9 日より、認定 NPO 法人となった。

令和元年度企画展「れきみん河内木綿栽培奮闘記〜大東もめん語り〜」の実施と結果

森井　綾乃

展示概要

大東市立歴史民俗資料館 (以下、資料館と略す) が位置する大東市は、かつて河内という地域に含まれ「河内木綿」の生産が盛んに行われていた。江戸時代頃には、木綿布の原材料である植物のワタが市内においても多く栽培されていた。資料館には市内の木綿栽培にまつわる古文書の他、木綿布作りで用いられた「糸車」や「綿繰り機」などといった古い道具が収蔵されている。

資料館の河内木綿に関する取組みとしては、毎年市内外小学校からの要請で小学校 1 年生国語科教科書に出てくる「たぬきの糸車」や、4 年生社会科「大和川の付け替え」などといった内容に合わせて、糸紡ぎ体験等の出前授業を行っている。また､常設展示室のハンズオンコーナーにおいては、来館者が「綿繰り機」を用いてワタの実から種を取り出す体験をいつでも自由に行うことが出来る。このような状況からもわかるように、資料館の教育普及活動にとって「河内木綿」は重要なテーマの 1 つと言えるだろう。

そのようななか、収蔵品のデジタルアーカイブ化やアウトリーチを趣旨として平成 29 年度〜 30 年度にかけて実施した文化庁補助金事業「進化系アーカイブと旅するミュージアム」において、平成 30 年度には木綿や染織など「河内木綿」に関連する史資料の撮影や整理、翻刻作業、施設敷地内におけるワタの栽培といった取組みを資料館の市民学芸員と共働する形で行った[i]。筆者が主担当した令和元年度企画展「れきみん河内木綿栽培奮闘記〜大東もめん語り〜」では、これらの「河内木綿」にまつわる取組みや活動成果を子ども向けの展示として展開した。本展の関連事業としては展示開催期間中に子供や親子向けのワークショップを 2 回実施した。また他地域から資料館へ足を運んでもらうことをねらいとして、大東市立文化ホールや大東市立生涯学習センターアクロスにおいて出張パネル展や、その関連イベントであるギャラリートークを巡回し実施した。

企画展チラシ (筆者によるデザイン)

1 施設概要

大東市立歴史民俗資料館の展示室は、大東市立歴史とスポーツふれあいセンターの 2F と 3F に位置する。廃校となった小学校がリノベーションされた建物であり、通称「来ぶらり四条」という名で親しまれている複合施設だ。当施設には大東市立東部図書館や、大東市立歴史とスポーツふれあいセンターの貸会議室と体育館やグランドといったスポーツ施設、大東市立歴史民俗資料館の 3 施設が併設されている。なお、今回大東市立東部図書館では本展に合わせて、木綿や染織に関連した図書を集めた特集コーナーを設置していただいた。(写真 1)

資料館の 2F が常設展示室で 3F は企画展示室であるが、一般来館者用の展示室入口は 2F のみであるため、3F の展示室へ向かうには通常 2F 展示室奥の階段を通る必要がある。今回の企画展に関しては、2F 常設展示室の廊下や階段、企画展示室の廊下も含む 3F 全体にわたって展示を展開した。

2 導線

当館の展示室の形状はそれぞれ入口が 2 か所あり、両方の入口が廊下に繋がっている。(写真 2) 展示室同士は繋がっておらず、廊下を通って目的の展示室に向かう必要がある。当館の場合、展示室のみならず廊下も活用し展示を構成することが多く、来館者は様々なルートで展示を鑑賞しているように見受けられる。本展は対象者が子供であるため、より分かりやすく順路を作ることが必要であると考えた。

先述したように、一般来館者が 3 階の企画展示室に向かうには 2 階の常設展示から資料館内の階段を上って向かう必要があり、鑑賞者は必ず資料館内階段から企画展鑑賞を開始することとなる。廊下を直進して、突き当りの展示室 1 から鑑賞される場合 (図 1) もあれば、手前の展示室を鑑賞後に奥へ向かわれる場合 (図 2) もあり、資料館が設定する順路もまた展示によって異なる。また展示室の鑑賞順によって、企画展示室 2 への入室が階段側か企画展示室 1 側かに影響している。また廊下を活用した展示の場合、企画展示室への入室方法や入室後のルートがさらに複雑化し (図 3)、こちらの希望通りの順序による鑑賞を促すには工夫が必要であると感じている。

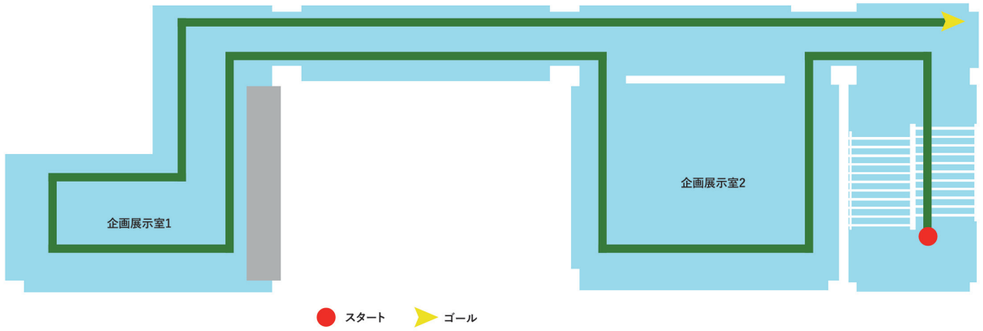
そこで今回は、必ず先に企画展示室 2 の手前の入口から鑑賞を初めてもらうため、廊下をふさぐ形で展示ケースを設置した。(写真 3) このようにすることで、展示室内の鑑賞ルートはともかくとして、展示室 2 →廊下→展示室 1 というルートで絶対的に鑑賞をせざるを得ない状況を作り出した。

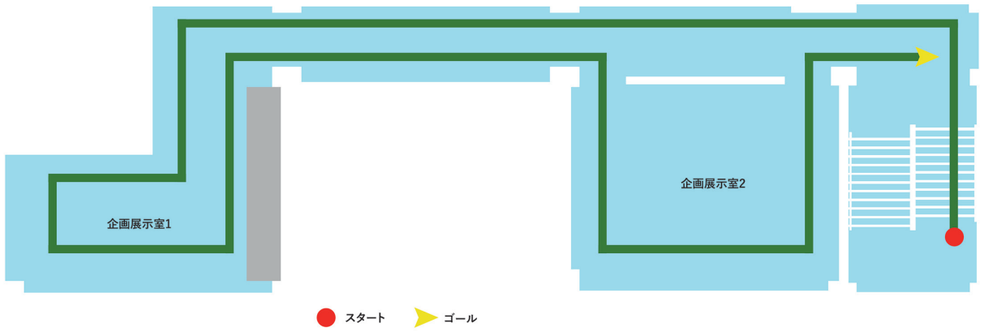
また、当館の展示室は四角い形状で壁面は展示室入口側を含めた四方向しかなく、壁面にパネルを展示した際に、大きく空間の空く展示室中央の空間にも展示内容を展開するが、この中央の展示物と壁面の展示物との鑑賞順序が分かりにくくなり、こちらの意図とは異なった鑑賞が行われる場合も多い。そこで、今回の展示では展示室 2 では壁面に接続させる形で展示台を連ねて大きな展示台を作り、鑑賞者の歩くことの出来るスペースをコの字型に限定した。(図 4・写真 4)

1：大東市立東部図書館　企画展関連図書コーナー
2：展示室の 2 つの入口
3：廊下に設置した展示ケース

3 展示構成

本展は「はじめに　河内木綿って？」「第 1 章　木綿の成長―れきみん河内木綿栽培奮闘記―」「第 2 章　古





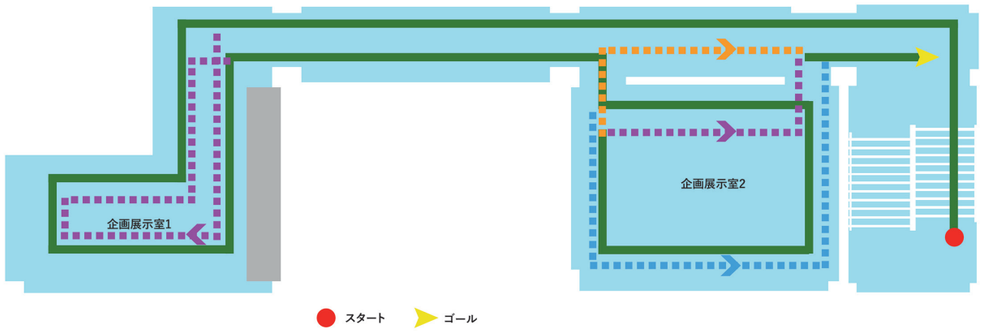
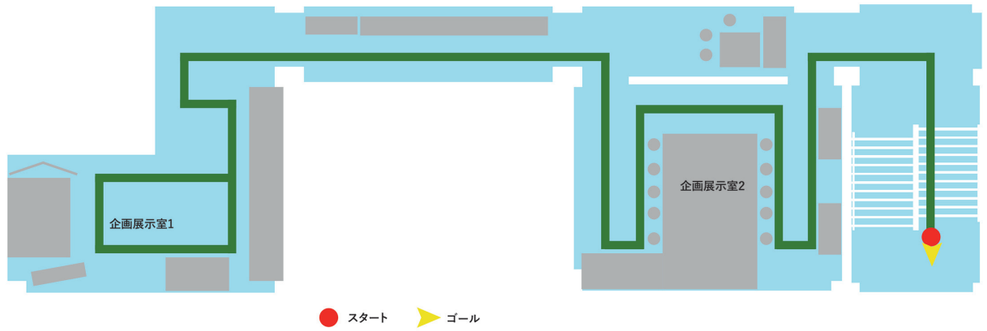


図 1：3 階企画展示室　鑑賞経路①
図 2：3 階企画展示室　鑑賞経路②
図 3：3 階企画展示室　鑑賞経路③

文書に書かれた大東市域の木綿の記録」「第 3 章　木綿の道具を未来に伝えよう」から構成した。(図 5) また 1 ～ 3 章の展示内容と関連する、木綿をテーマとして活動した3つの市民学芸員活動について紹介するコーナーや、大東市教育委員会が発刊している「マンガ大東の歴史」の読書コーナー、市民学芸員による自主的な活動「民話と石造物調査チーム」として活動中の黒川喜和子氏によるオリジナル紙芝居『河内木綿』の紹介コーナーなども設けた。

展示ストーリーとしては、まず「はじめに」において

4：コの字型の鑑賞スペース



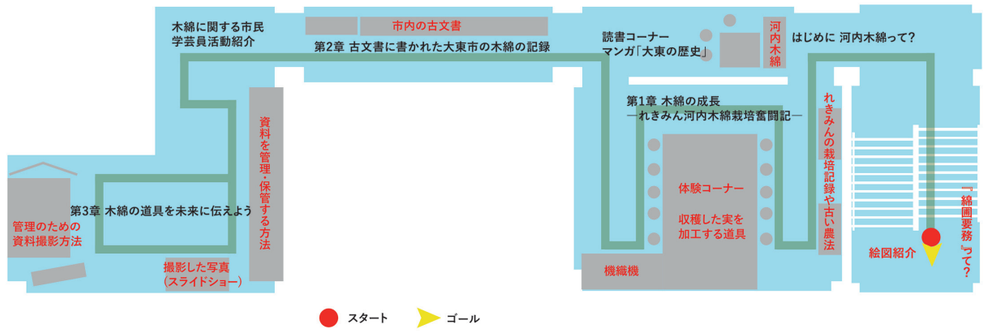


図 4：3 階企画展示室　令和元年度企画展「れきみん河内木綿栽培奮闘記～大東もめん語り～」鑑賞経路
図 5：3 階企画展示室　令和元年度企画展「れきみん河内木綿栽培奮闘記～大東もめん語り～」展示構成

河内木綿の実物を見てもらい、第 1 章で原材料となるワタの栽培方法や木綿布を織るまでのプロセスについて館蔵資料の道具を用いて紹介、第 2 章では大東市と木綿の関わりについて史料から読み取れることについて具体的に紹介し、最後に第 3 章においては、このような資料を保存し未来に伝える資料館の取り組みについて紹介した。こうした展示構成とした理由は、大東市と関わりの深い河内木綿の紹介や館蔵史資料の紹介とともに、今現在の大東市におけるワタとの関わりである資料館の取り組みとを繋がりを合わせて知ってもらい、未来を担う子供たちにこうした資料を残し伝える資料館の取り組みに興味を持ってもらうことをねらいとしたためである。

なお、黒川氏による紙芝居の一場面のイラストは、本展のパネルデザインやチラシデザインとしても使用させていただいた。(チラシ裏面・写真 5・写真 6)

3-1 導入

先述したように当館の常設展示室は建物の 2 階に位置しており、企画展示室へ向かうためには常設展示室を通り抜けて突き当りの階段を進む必要がある。そのため、企画展示室で展示を行う際は突き当りの階段前に案内を掲示するのだが、意外と掲示に気付かず引き返される場合が多く、子どもだけの来館となるとなおさらである。今回は常設展示室廊下の窓枠を活用してパネルを並べ、廊下を進むにしたがってワタの種まきから収穫までの一連の成長過程を知ることが出来るような仕掛けにすることで 3 階企画展示室への誘導を試みた。(写真 7) また、常設展示突き当りには資料館のワタ畑の様子の特大パネルと『綿圃要務』の絵図にまつわるクイズの特大パネルを設置し (写真 8)、クイズの正解パネルを階段 2 階～ 3 階間の踊り場に設置 (写真 9) するとともに、その後の展示で頻出する江戸時代の農書『綿圃要務』について紹介も行った。(写真 10) このように企画展示室への誘導を兼ねる形で、企画展本編に関する基礎知識の紹介を試みた。

3-2 はじめに　河内木綿って？

企画展本編のはじまりとなる「はじめに　河内木綿って？」では、まず河内木綿の実物を見てもらうために、河内木綿の端切れが使用されている仏餉袋と、表紙に「蔓延元年」と墨書が見られる縞帳の 2 点を八尾市立歴史民俗資料館より借用し、展示した。(写真 11) また、河内や地域内における大東市と八尾市の位置関係を示す地図もパネルで紹介した。

3-3 第 1 章　木綿の成長―れきみん河内木綿栽培奮闘記―

第 1 章では、2 階常設展示室廊下でも導入として紹介した、河内木綿の原材料である植物の成長記録をさらに分かりやすく 1 年の成長をグラフにまとめるなどして紹介した。また、国立国会図書館のデジタルコレクションを利用して子供にも理解しやすいように『綿圃要務』や『農具便利論』の絵図に着色したものと、当館が所蔵する「底抜け担桶」や、組み合わせて用いられる「担い棒」を展示し、江戸時代のワタの栽培方法や道具について紹介した。(写真 12) さらに、展示台を連結させて作った大きな展示台上に 2 枚畳を敷き、資料館が所蔵する紡織に用いられる道具を畳の上に加工順に並べて展示した。また畳の周りには「体験コーナー」として綿繰り機を使ってワタの実から種を取り出す体験や、別の展示のために以前市民学芸員が考案し制作した「着物の組み立て方キット」や「織物体験キット」を設置して自由に来館者が使用出来るようにした。(写真 13) 展示台と接合した壁面では市民学芸員が別の展示のために制作した、収穫した実を用いて糸を紡ぐまでの実演映像をモニター上でループ再生させ、展示している道具が実際にどのように

企画展チラシ　裏面

5：市民学芸員黒川氏作紙芝居のイラストを使用したパネル／ 6：紙芝居の紹介コーナー／ 7：2 階廊下の窓枠を活用した展示
8：廊下突き当りの特大クイズパネル／ 9：2 階～ 3 階間の階段踊り場で正解を示した／ 10：2 階～ 3 階間の階段踊り場の綿圃要務紹介
11：八尾市立歴史民俗資料館より借用した縞帳と仏餉袋 (撮影にために展示ケースを点灯した)／ 12：ワタの栽培記録や農具の紹介

使われるのかを紹介するとともに、映像を見ながら綿繰り機体験が出来るようにした。(写真 14)

3-4 第 2 章　古文書に書かれた大東市域の木綿の記録

第 2 章では、江戸時代の市内における木綿栽培の様子について市内に伝わる古文書を用いて紹介した。(写真 15) 主に三箇村の明細帳や作附仕訳帳などといった古文書から、村におけるワタの作付け面積の変遷や水損など、当時の栽培状況を紹介した。なお第 2 章は資料館学芸員の大畑博嗣氏が担当し、古文書の翻刻やキャプションは大畑氏による指導のもとで市民学芸員が作成した。

3-5 第 3 章　木綿の道具を未来に伝えよう

第 3 章では、市内の昔の様子を物語る貴重な史資料を未来に残し伝えていくために資料館が行っている取組みとして、クリーニングや写真撮影について紹介した。(写真 16) 撮影作業については、より来館者にイメージしてもらいやすいように実際の撮影セットを展示仕様に組んで設置した。(写真 17) なお第 3 章は資料館学芸員の甲斐規予子氏が担当し、撮影セットの再現コーナーについては、堀内保彦氏 (特定非営利法人フィールド) よりご協力いただき、実際に撮影の際に使用しているライトやバック紙、被写体のイメージとして半纏を設営し、撮影現場の再現を行った。また、市民学芸員と共に撮影した資料写真のスライドショーをモニターでループ再生させるとともに、(写真 18) 作業風景の写真をパネル展示した。(写真 19)

4. 実施結果

展示開催期間中の来館者は、大人来館者数が 91％ (2322 名)、子供来館者数が 9% (232 名) という結果となり、子供来館者数が圧倒的に少なかった。ただし、資料館における子供来館者数のカウントは手動で行っており、学芸員が事務所を離れている際にはカウント漏れをする可能性があるため、正確な数とは言えない。

また、展示アンケートの記入者は、20 歳未満の回答者数が回答者数全体の 25％となった。20 歳未満の回答者による展示の感想についての記述からは、「いろいろな体験が出来て楽しかった」「おりものがたのしかった」「実際に行った活動を分りやすく展示していて、木綿の栽培工程が理解できました。そしてその綿の作業が体験できるスペースがあることでより分かることができました」など、これまでの子供向け展示のアンケートでも見られたように、体験出来るものに関する記述が多かった。さらに「もっと体験できるものをふやしてほしい」といった要望も複数見られたことから、体験コーナーの需要の高さがうかがえた。その他にも、今回の展示を通して河内木綿や木綿布を作る道具への興味を深められたことが記述から確認出来た。資料館への来館が初めてであるとの回答者は全体の 20％であったことから、「河内木綿」というテーマに興味を持った新規来館者が多かったとも読み取れるが、来館者数に対してアンケート回収率は低く、いずれにしてもアンケート結果を来館者の傾向として見ることは出来ない。

5 まとめ・今後に向けて

今回回収したアンケートの記述から、子供来館者の体験できるもの (ハンズオン) の需要を再認識させられた。また子どもに伝わりやすい表現の試みとして、国立国会図書館のデジタルコレクションを利用し筆者が着色した絵図を多用したことは、利用者の記述からおよそ成功であったことが確認できた。しかしながら、第 2 章の古文書の紹介や第 3 章の資料館の取組の紹介に関する記述は大人来館者によるものしかなく、子供来館者にどのように受け取られたのかは推察しかねる結果となった。今後の子供向け展示では、子供来館者の展示への反応を把握するためのアンケート様式の工夫やその他聞き取りを行うなどといった工夫が必要であると考えられ、課題としたい。

謝辞

本展を開催するにあたり、取材・資料借用・展示設営等にご協力いただきました機関や関係者ならびに市民学芸員の皆様に心より感謝申し上げます。

13：資料とその周囲の体験コーナー／ 14：映像を見ながら体験用の綿繰り機を使う様子／ 15：第 2 章の様子
16：資料とクリーニングや撮影に用いる道具／ 17：撮影セットの再現コーナー／ 18：モニターを使って撮影した資料写真のスライドショーをループ再生
19：市民学芸員と共に行った撮影作業風景と撮影した写真を紹介

註

ⅰ) 事業の詳細な内容については『進化系アーカイブと旅するミュージアム事業 平成 30 年度事業報告書』(進化系アーカイブと旅するミュージアム事業実行委員会編、2019』を参照されたい

令和元年度企画展「れきみん河内木綿栽培奮闘記〜大東もめん語り〜」　展示品リスト

はじめに　河内木綿って？

	名称	点数	所蔵
1	仏餉袋 (八尾市立歴史民俗資料館蔵	1 点	八尾市立歴史民俗資料館
2	縞帳 (八尾市立歴史民俗資料館蔵)	1 点	八尾市立歴史民俗資料館

第 1 章　木綿の成長―れきみん河内木綿栽培奮闘記―

3	担い棒	1 点	大東市教育委員会
4	底抜け担桶 (2 点セット)	1 式	大東市教育委員会
5	綿繰り機	1 点	大東市教育委員会
6	糸車	1 点	大東市教育委員会
7	綛車	1 点	大東市教育委員会
8	綛	1 点	大東市教育委員会
9	糸枠	1 点	大東市教育委員会
10	座繰り機	1 点	大東市教育委員会
11	綿打ち弓	1 点	―
12	反物	1 点	―
13	下機	1 式	腰当て具は澤田絹子氏所有物を借用

体験用

15	綿繰り機	3 点	―
16	織物体験キット (市民学芸員作)	2 点	―
17	着物組み立てキット (市民学芸員作)	3 点	―

第 2 章　古文書に書かれた大東市域の木綿の記録

18	河内国讃良郡三箇村庄屋明細帳	1 冊	大東市教育委員会
19	亥年稲木綿作附仕訳帳	1 冊	個人
20	風雨痛毛御改帳	1 冊	個人
21	水不足に虫害につき年貢減免願書	1 紙	個人
22	辰年稲木綿作附仕訳帳	1 冊	個人
23	木綿作検見二付願書草案	1 紙	個人
24	河州茨田郡新田村明細帳	1 冊	個人
25	実綿二付嘆願書	1 紙	大東市教育委員会
26	百姓余業之訳書上帳	1 冊	大東市教育委員会

第 3 章　木綿の道具を未来に伝えよう

27	糸車	1 点	大東市教育委員会
28	綿繰り機	1 点	大東市教育委員会
29	座繰り機	2 点	大東市教育委員会
30	クリーニング用具	1 式	―
31	調査用具	1 式	―
32	赤外線カメラ	1 点	―
33	撮影セット	1 式	―

大東市立歴史民俗資料館　館報　第 4 号
令和 3 年（2021）3 月 31 日　発行
編集・発行　大東市立歴史民俗資料館（指定管理者：株式会社アステム）
〒 574-0015　大阪府大東市野崎 3-6-1
TEL：072-876-7011　FAX：072-876-7702
デザイン　森井 綾乃 (株式会社アステム)